

村立図書館が8月10日で開館30周年



↑ 川崎松男東海村教育
長が、主権者あいさつ

照沼泉図書館長が事業の
説明を行いました →

今年8月10日、東海村立図書館は開館30周年を迎えます。図書館では、記念事業として図書館ロビーに、東海村の歴史を伝える写真展「東海村の今昔」が、30日まで行われ、8月29日・30日には図書館まつりとして、原爆パネル展ほか、たくさんのイベントが準備されています。

1日に、記念事業開催のオープニングセレモニーが行われ出席しました。教育立村を標榜してきた本村は、図書館の充実に力を入れ、村民に開かれた、生涯学習機能等を備えた「出会いと交流

の図書館」と位置づけてきました。

その甲斐あって、昨年度の1日平均貸し出し者数は、338人にのぼっています。語彙をふやし、想像力と豊かな感性をはぐくみ、自分で考える力を養うなど、生きていくうえで必要な力をきちんと身につけてくれる読書の大切さを全村民のものに、引き続きお願いします。



是非、見てね

議会原子力問題調査特別委員会

東海原発 L3 廃棄物の埋設事業許可申請書の説明

6日開会の原特委では、7月16日に原電が行った東海発電所解体に伴う放射性廃棄物 L3 の埋設処分事業許可申請の内容について、原電の説明がありました。申請書の内容は、すでに概要版として原電が、申請書そのものはたくさんの白塗りつきで規制委員会がそれぞれホームページに掲載しています。私は、主に概要版を読み、疑問点を書き出し委員会にのぞみました。たくさんの質問項目が出ましたので、委員会で直接聞くものと、その他聞くことができない質問は文書質問として提出する準備をしました。

原電は、旧原研の研究炉 JPDR の解体廃棄物 L3 の埋設を参考にしたと言っていますが、JPDR の場合、コンクリートのみ埋設です。そして原電の計画の L3 では、金属とコンクリートになっています。これで参考にできるのか疑問です。

また、L3 は素掘りの施設に埋設しますので、埋設地周辺の地下水への放射性物質の影響が懸念されます。原電の調査では、地下水は定常的に太平洋に流れているので、放射性物質の影響があったとしても全量海に移行するので大丈夫と言っています。海では「希釈される」から? 耳を疑ってしまいます。

さらに、低レベル放射性廃棄物には、L1、L2、L3 があり放射能レベルは L3 が最も低いとされています。今回の計画は、L1、L2 の処分の見通しを全く持てないまま、L3 だけは埋めてしまおうというものです。今後、L1、L2 も結局自社敷地内埋設にせざるをえないということになりはしないか心配です。これは深刻な問題です。L1、L2、L3 そろって見通しを立てるべきです。

いずれにせよ、L3 がセシウム 137 で 7000 ベクレル/kg以下(原電発表)では、埋設せず管理型に!!